

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：遺家族等援護費

事業名【新】次世代への戦争体験等継承事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 地域福祉課 管理援護係 電話番号：058-272-1111(内3442)

E-mail：c11219@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,000 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	2,000	0	0	0	0	0	0	0	2,000
決定額	1,826	0	0	0	0	0	0	0	1,826

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

戦没者の慰霊や遺族への福祉増進を目的として結成された(一財)岐阜県遺族会は、県内の郡市遺族会と連携しながら、様々な顕彰活動や啓発活動などを通して戦争の体験と記憶の継承に尽力している。

しかし、月日の経過によって会員の高齢化(平均年齢80歳)が進行し、子や孫世代の担い手不足が急速に進行している状況にある。

この課題に対応するためには、まずは県遺族会の活動をより多くの県民に知ってもらい、そして、若い世代が先の大戦に対して認識を深めるよう取り組んでいくことで、遺族会活動への参加意識を高めていくことが効果的である。

(2) 事業内容

(一財)岐阜県遺族会が行う、若い世代に向けた、会の役割や活動内容等の情報を発信し、会員確保につなげるための啓発活動や、戦争の体験と記憶の継承活動等に対して助成を行う。

[啓発活動の例]

- ・インターネットを活用した情報発信(ホームページ、SNSなど)

[戦争体験等の継承活動の例]

- ・戦時中の装備品、写真などの画像のデータ化、戦争体験の「語り部」の映像や音声のデジタル化
- ・戦争体験者の講演会、パネル展、語り部養成講座などの開催

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率：10/10

補助率の考え方：戦没者の慰霊や戦没者遺族の福利増進は、国・自治体が率先して推進すべき事項であり、財政基盤が脆弱な遺族会を最大限に支援する必要がある。

(4) 類似事業の有無

- ・ 恩給援護団体助成補助金
県遺族会が実施する英霊顕彰事業等に対する助成

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	2,000	県遺族会が行う新たな啓発活動や戦争体験等の継承活動に対する助成
合計	2,000	

決定額の考え方

補助対象経費のうち、ホームページの保守管理経費の計上を見送り、所要額を計上します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

無し

(2) 国・他県の状況

- ・ 国の状況：戦没者遺族の全国組織である日本遺族会が行う戦没者追悼や戦争を風化させない活動に対し支援を実施。
- ・ 近県の状況：愛知県、三重県、静岡県において、各県遺族会に対し、運営費の補助や追悼式の参列費用の助成を実施。

(3) 後年度の財政負担

遺族会の安定した活動を維持していくためには、人的なサポートに加え、一定の財政的な支援が必要。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：(一財) 岐阜県遺族会

妥当性：県遺族会は、県内の戦没者遺族の代表的団体として、各郡市遺族会を束ね、遺族等等関係者のネットワークを活用できることから、事業主体として妥当。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	次世代への戦争体験等継承事業費補助金
補助事業者(団体)	一般財団法人岐阜県遺族会 (理由) 県内の戦没者遺族の代表的団体であり、戦没者の慰霊や遺族への福祉増進を目的に活動を行っている。
補助事業の概要	(目的) 県遺族会の安定的な活動の維持 (内容) 県遺族会が行う新たな啓発活動や戦争体験等の継承活動に対する助成
補助率・補助単価等	定額 <u>定率</u> ・その他(例:人件費相当額) (内容) 補助率10/10 (理由) 戦没者の慰霊や戦没者遺族の福利増進は、国・自治体が率先して推進すべき事項であり、財政基盤が脆弱な遺族会を最大限に支援する必要がある。
補助効果	遺族会の安定的な活動に繋がり、若い世代への戦争体験と記憶の継承が促進される。
終期の設定	終期 令和6年度 (理由) ホームページの立上げ、運用及び語り部のデジタルアーカイブ化が軌道に乗る初期2年度間を支援するため。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>県遺族会の役割や活動を多くの県民に知ってもらい、また、先の大戦に対する認識を深めてもらうことにより、遺族会活動への若い世代の参加意識を高め、遺族会の安定的な活動を維持する。</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標	
					(R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位:千円)	R元年度	R2年度	R3年度

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和 3 年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	会員の高齢化が進行し、子や孫世代の担い手不足が急速に進んでおり、遺族会活動の継続が危ぶまれている。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 遺族の高齢化が進行し、子や孫世代の担い手不足が急速に進んでいる状況にあり、早急に事業を進める必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 遺族会では、会の存続が困難となることで、戦没者の慰霊活動が疎かになり、戦争体験や記憶が風化することを危惧しているため、県として、同会の担い手確保に向けた取組みを人的・財政的にサポートしていく。
--